

5年生 研究授業

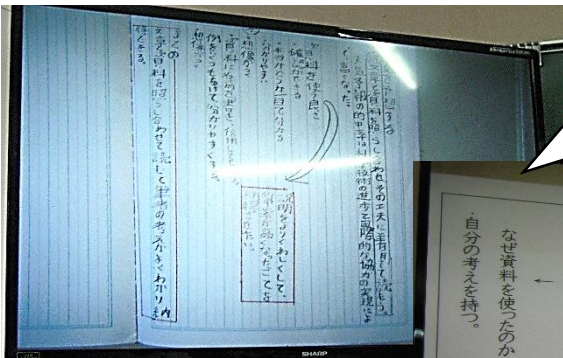
「説明のしかたについて考えよう／天気を予想する」(6時間)

単元を貫く言語活動：「新聞の記事を紹介しよう」		【言語活動例：ウ】
単元の目標	◎前半部分と後半部分の書き方の書かれ方の違いに着目し、筆者の伝えたいことを考えながら読むことができる。(読ウ) ◎筆者が伝えたいこと、論の進め方、図表などの活用の仕方について感想を話し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。(読オ) ◎文章の中で語句と語句との関係を理解することができる。(伝国イ(オ))	

◆本時の流れ◆ (3/6時間)

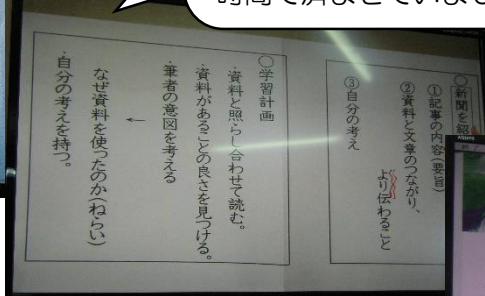
【本時の目標】 筆者の考えをつかみ、資料を使うことの効果に着目して筆者の説明の工夫を読み取ることができる。

導入 1. 前時の学習を振り返る。



実物投影機のSDカードに保存した児童のノート

児童の前時のノートを実物投影機の撮影機能を使ってSDカードに保存。それを活用したり、デジタル教科書を活用したりして、前時の学習の振り返りを行いました。
ICT機器を活用して、単元の導入をテンポよく短時間で済ませていました。



実物投影機のSDカードに保存した単元計画



デジタル教科書

2. 学習課題の確認

文章と資料を照らし合わせ、その工夫に着目して読もう。

展開 3. 「2つ目の問い」と「答え」を確認後、段落④～⑥を音読し、要旨をまとめる。



音読



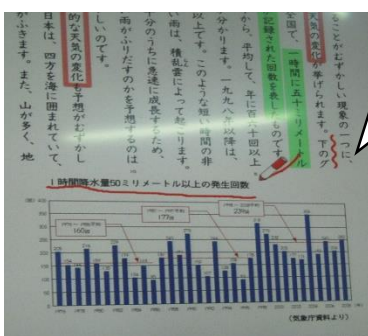
ノートの要約



要約した内容を全体で確認

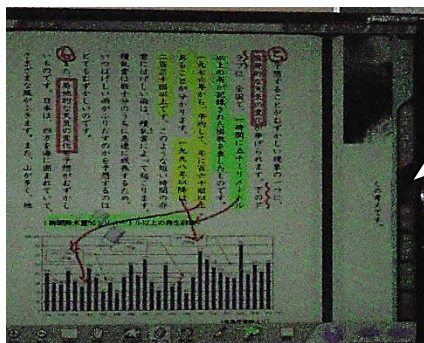
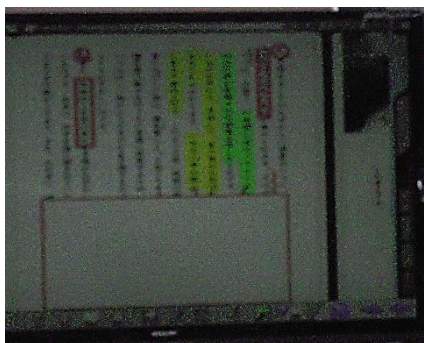
新聞の記事を要約する活動を週に1度家庭学習として取り組んでいるので、短時間で要旨をまとめることができていました。

4. グラフと文を照らし合わせながら読み、線で結ぶ。



子どもたちが線を結んだ場所を全体で確認しています。
デジタル教科書を活用すると、文とグラフが対応しているところを確認するときに便利です。視覚でとらえることができるので、子どもたちにとって分かりやすいです。

5. グラフを活用することでどのような効果があるかを考え、交流する。



(個⇒グループ⇒全体)

グラフがある場合とない場合についてデジタル教科書を活用して視覚に訴えてから、考えをノートに書かせる工夫をしていました。



自分の考えをノートにまとめる



グループで話し合う



グループで出したものを板書



グループで出した意見を全体で交流 ⇒ 本時のまとめにつながるような意見が出されていました。

まとめ 6. 本時のまとめ

文章と資料を照らし合わせて読むと、筆者の考えがよく分かり、納得できる。

7. 「朝日小学生新聞」の記事（図、表、グラフが活用されている記事）を文章と資料を照らし合わせながら読む。



資料と文章を照らし合わせながら読む力を身につけるために、並行読書のように新聞記事を読む活動を位置付けました。

◆成果と課題◆

- 単元を通して並行読書のように「新聞を読む」活動を取り入れ、最後に「新聞の記事を紹介する」活動を設定したことで、子どもたちは目的意識をもって学習に取り組むことができた。
- デジタル教科書を効果的に活用できた。今回は、資料がたくさんある教材だったので、特に効果を感じた。また、児童のノートや単元計画を実物投影機のSDカードに保存して、それを見せて前時までの学習や単元の流れを確認するところで活用したところも効果的だった。
- 時間配分を工夫することが大切だと痛感した。そのためにも、指導事項を明確にし、具体的に何を教えるのか考えることが大切だと分かった。
- グループで話し合った後に、グループの意見を子どもたちが黒板に書く場面で時間が掛かってしまった。交流のさせ方を工夫していく必要がある。